

松徳 憲二 議員

(一問一答方式)



- ①水道事業について
- ②A E D (自動体外式除細動器) について
- ③コミュニティタイムラインの情報伝達方法について

水道管の劣化診断について

問 地中に埋設された水道管の劣化状況の判定は容易ではないが、他市ではA Iを活用し劣化診断を行っている事例もある。大洲市ではA Iを活用した水道管の劣化診断を実施する考えはないか。

答 A Iを活用した水道管の劣化診断については、A Iが管路データや漏水修繕データ、環境データ等を学習し、管路の老朽度を評価するものであり、既に導入している自治体の事例では、更新すべき管路的中率は70%から81%と高くなっています。

A Iによる劣化診断を導入した自治体では、漏水の可能性のある区域を抽出することが可能となり、調査対象管路を事前に絞り込むことで、調査経費の削減及び調査期間の短縮を図ることができたとの事例があります。

また、更新作業についても、重要度や影響度を加味した評価を行うことで、総合的な優先順位の決定や更新対象管を絞り込むことができ、費用の削減が図れたなどの事例もあります。

A Iによる劣化診断を行うことにより管路の老朽度を可視化することができれば、より効率的な更新作業が実施できるとともに、今後の更新計画の基礎資料として活用できるものと考え、今年度の三善、八多喜の2地区で試験的に実施をしています。

現在行っている劣化状況の診断結果が適当であると評価できれば、市内全域の水道管路についてA Iによる劣化診断を導入し、今後の漏水調査及び管路更新計画に活用するとともに、経費削減及び有収率の向上にもつなげていきたいと考えています。

A E Dの利用状況について

問 大洲市が管理しているA E Dの設置基準、耐用

年数、設置箇所はどれくらいあるのか、また、設置してから今まで使用した事例があれば伺いたい。

答 平成18年度に策定した設置計画に基づき市が設置・更新しているA E Dは、市内のコミュニティセンターや学校等の公共施設に143台となっています。また、市内には、民間の病院や介護施設など100か所以上に整備されています。

A E D本体の耐用年数は8年となっており、定期的な更新を実施するとともに、消耗品となるパッドは2年に1度、バッテリーは4年に1度の交換を実施しています。

近年におけるA E Dの使用事例としては、大洲消防署によると、令和5年に1件、令和6年に3件の使用実績があり、本年8月には徳森地区において、ランニング中の方が突然倒れ、周囲に居合わせた市民の方々が協力して心臓マッサージを施しながら近くの児童センターにあったA E Dを使用したことで、大切な命を取り留めることができたという事例もあります。

災害時における市と各地区の連携について

問 新谷地区では自治会、自主防災組織、区長、民生委員、消防団等の方々が取るべき行動と、それに伴う課題等についてワークショップを開催し、コミュニティタイムラインが策定されているが、大洲市との連携について伺いたい。

答 本市では、国、県等の防災関係機関と共に災害時に連携した対応を行う肱川流域（水防災）緊急対応タイムラインを策定し、気象情報や河川情報などを持ち寄り、危機感の共有を図っています。コミュニティタイムラインは、肱川流域（水防災）緊急対応タイムラインの効果을上げるため、避難の準備や避難行動の開始、あるいは住民の皆様への注意喚起や避難所の準備、開設などについて、各地区が行うべきことや市と調整・共有することを取りまとめたものです。

市と各地区との連携については、コミュニティタイムラインを運用することで、市と各地区が連携して災害対応に当たることができると考えています。各種情報の提供、危機感共有等を行い、より実効性の高い連携が図れるよう努めていきます。